



本リリースは、レッドハットとユニアデックスの共同リリースです。各社より重複して配信される場合がございますがご了承ください。

報道関係各位

2016年9月14日
レッドハット株式会社
ユニアデックス株式会社

**NHN テコラス、Red Hat OpenStack Platform を採用
SDS と HA 機能で高可用性を確保し柔軟な IaaS サービスを実現
IaaS 環境とオンプレミス環境のつなぎ込みも可能に**

オープンソースソリューションのプロバイダーである、レッドハット株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:望月 弘一、以下:レッドハット)とユニアデックス株式会社(本社:東京都江東区、社長:東 常夫、以下:ユニアデックス)は、IT インフラサービスなどを提供する NHN テコラス株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:稲積 憲)が、レッドハットとユニアデックスが提供する Red Hat OpenStack Platform を採用し、高可用性を確保した柔軟性の高い IaaS サービスを 2016 年 6 月より提供開始したことを発表しました。

NHN テコラスが、Red Hat® OpenStack Platform を採用した理由は 2 つあります。1 つ目は、商用 OpenStack の中で Software-Defined Storage (SDS) への対応実績が豊富なこと、そして 2 つ目は、商用 OpenStack でレッドハットだけが自動フェイルオーバー機能を実装できていることです。この 2 つによって、同社の IaaS サービスは、高い信頼性と可用性を持つサービスを提供することができました。

NHN テコラスは、IT インフラソリューション事業・セキュリティ事業・コマース事業・広告事業を展開するデータソリューション企業です。クラウドサービスの普及に伴い、同社では 2016 年より新たに IaaS のサービスをラインナップしています。IaaS サービスの開発にあたっては、要素技術として OSS のクラウドプラットフォームである OpenStack と CloudStack とを比較検討しました。そして活発なコミュニティ活動や情報の豊富さからコミュニティ版の OpenStack を選び、サービス提供を視野に入れて検証を進めました。

検証によって、同社内に多くの OpenStack の知識が蓄積されたものの、IaaS サービスを顧客に提供する上で、サービス(商品)の安定性を確保する必要があること、また時間をかければ良いサービスを作ることができるが、サービスの市場投入までに時間がかかってしまうこと、の 2 つの理由から、コミュニティ版ではなく、OpenStack の豊富な知見を持つ外部パートナーが展開する商用 OpenStack を追加で使用する方向としました。

その際、同社のデータセンターの運用保守、機材の調達や構築を以前から担当していたユニアデックスからの情報提供や技術支援に基づき、検討を進めました。

同社は、商用 OpenStack のパートナーを選ぶ上で、突発的に発生するトラフィックの変動容量の変化に柔軟に対応できるように、SDS をサポートしていること、そして、物理マシンが異常を検知し切り替える自動フェイルオーバー機能(ハイアベイラビリティ機能)を持つことの 2 点が重要なポイントでした。そこで、商用の中で SDS への対応実績が豊富で、自動フェイルオーバー機能を実装している Red Hat OpenStack Platform を採用することにしました。また、IaaS サービスのファーストユーザーとして想定していた顧客企業の、オンプレミス環境と今回提供する IaaS 環境とを連携させる要件があり、Red Hat OpenStack Platform では、2 つの環境をつなぎ込むことができることも採用の大きな理由でした。

IaaS サービスの構築プロジェクトは、2016 年 1 月にスタートし、構築に約 4 ヶ月、テストに約 2 ヶ月をかけ 2016 年 6 月に HA 機能を含む完全版がリリースという短期間で、高い信頼性と可用性を持ち合わせる IaaS サービスが提供できました。本プロジェクトでは、レッドハットが基盤構築のコンサルティングと構築作業を、ユニアデックスがシステム全体の運用・保守を担当しました。現状、コミュニティ版の OpenStack を活用した IaaS サービスも提供しているものの、Red Hat OpenStack Platform を採用した同サービスは順調に伸びており、既存顧客へのサービス拡大につながっています。

レッドハットとユニアデックスは、NHN テコラスへの導入事例を活かし、今後も Red Hat OpenStack Platform を含めた導入支援、および関連サービスの拡販を展開していきます。

以上

各社のコメント

NHN テコラス株式会社 取締役 平井 壮氏

「IaaS サービスの導入にあたって、Red Hat OpenStack Platform を導入したことで、短期間でサービスのローンチが可能となりました。また、これまでのコミュニティ版の活用とは異なり、知見を持ったパートナー企業から信頼ができるサポートを受けることができ、顧客対応やマネージドサービスに専念することができています。また、技術的にも、SDS、HA 機能への対応と求めていた機能も有し、さらにユーザー様から求められていた IaaS 環境とオンプレミス環境の繋ぎ込みもスムーズに稼働できております。今後も、世界の最新事例を数多く持ち、知見のあるパートナー企業様と相談させていただきながら、OpenStack に限らず、有用な OSS を取り入れていきたいと思っております。」

レッドハット株式会社 代表取締役社長 望月 弘一

「このたび、商用 OpenStack のパートナーとして我々を選んでいただき嬉しく思います。OSS プロバイダーのリーディングカンパニーとして、レッドハットではユーザー視点に立った最先端の事例やテクノロジーを取り揃えおり、Red Hat OpenStack Platform では SDS や HA 機能といった NHN テコラス様のニーズに応えることができました。また今回、基盤構築をする上で IaaS 環境とオンプレミス環境の繋ぎ込みという課題にも適切な提案が出来たことに満足しております。今後も OSS が生み出す最先端テクノロジーとレッドハットならではのコンサルティング・技術支援をもって、お客様のシステム環境をサポートして参ります。」

関連リンク

- Red Hat OpenStack Platform について
<https://www.redhat.com/ja/technologies/linux-platforms/openstack-platform>

その他のリンク

- レッドハット株式会社 について <http://www.redhat.com/ja/global/japan>
- Red Hat newsroom について
http://www.redhat.com/ja/about/news?f%5B0%5D=field_press_release_region%3A871&rset1_format=list
- Red Hat blog を読む <http://www.redhat.com/ja/about/blog>
- レッドハット株式会社の Twitter をフォローする <https://twitter.com/RedHatJapan>
- レッドハット株式会社の Facebook <https://www.facebook.com/RedhatJapan>
- Red Hat videos on YouTube を視聴する <https://www.youtube.com/user/RedHatVideos>
- Red Hat on Google+ <https://plus.google.com/+RedHat/posts>
- ユニアデックス株式会社 について <http://www.uniadex.co.jp/>
- NHN テコラス事例 <http://www.uniadex.co.jp/casestudy/virtualization/nhn.html>

Red Hat について

オープンソースソリューションのプロバイダーとして世界をリードする Red Hat は、コミュニティとの協業により高い信頼性と性能を備えるクラウド、Linux、ミドルウェア、ストレージおよび仮想化テクノロジーを提供、さらに サポート、トレーニング、コンサルティングサービスも提供しています。Red Hat は、企業、パートナーおよびオープンソースコミュニティのグローバルネットワークの中核として、成長のためにリソースを解放し、IT の将来に向けた革新的なテクノロジーの創出を支援しています。<http://www.redhat.com> をご覧ください。

レッドハット株式会社について

レッドハット株式会社は、米国ノースカロライナ州ラーレーに本社をおく、エンタープライズ Linux®の世界的なディストリビューション Red Hat, Inc.の日本法人です。オープンソースを基盤として、組込み系からエンタープライズサーバまで対応する普遍的なプラットフォームとサービスを提供しています。

将来予想に関する記述

このプレスリリースに含まれる表現は、1995 年米国民事証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) が定める定義の範囲内で「将来の見通しに関する声明」に相当する場合があります。将来の見通しに関する声明は、特定の仮定に基づいて将来の出来事に対する現在の期待を表明したものであり、過去または現在の事実と直接関連しない声明を含んでいます。実際の結果は、重要なさまざまな要因により、将来予測に関する記述に示されたものとは大きく異なる場合があります。その重要な要因としては、当社が実効性のある競争を行えるか、新しい製品や技術革新を適時に提供して、それらに対する需要を喚起できるかに関するリスク、IT 投資の遅れや削減、業界統合による影響、買収先の統合および取得した技術や商品を市場にうまく投入できるかに関するリスク、訴訟やそれに関連する和解の不確実性や不利な結末、当社の知的所有権を適切に保護できないこと、また、第三者の知的所有権に関してライセンス侵害・違反の請求がなされる可能性、データと情報のセキュリティ上の脆弱性に関するリスク、当社の成長と国際的活動に対する実効性がない管理と統制、為替レートの変動、主要スタッフの変更とそれらの者への依存、並びに、当社の Form10-Q に基づく最新の四半期報告書(コピーは SEC のウェブサイト <http://www.sec.gov> から入手可能)に掲載されているその他の要因(同ウェブサイトの「リスク要因」および「財務状態と営業成績に関する経営陣の考察と分析」の項に掲載されている要因)などが挙げられます。これらの要因に加えて、実際の将来の業績、結果、および成果は、業界や市場の全般的な状況、成長率、経済および政治の状況、政府・公共の政策の変更、地震や洪水などの自然災害の影響などの、より一般的な要因のために大きく異なる場合があります。本プレスリリースに掲載されている将来予測に関する記述は、その発行日時点の当社の見解を示したものであり、その見解は変更されることがあります。ただし、当社は将来のある時点で将来予測に関する記述を更新することもあります。更新についていかなる義務も負うものではありません。これらの将来の見通しに関する声明は、本プレスリリースの発行日より後のいかなる時点における当社の見解も表すものではありません。

※Red Hat は、Red Hat, Inc.の登録商標です。

※OpenStack は、OpenStack Foundation の登録商標です。

※Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

※その他記載の会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載のニュースリリース情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。